

世界図書館巡礼

—東西文化交渉の書籍を求めて (3) —バチカン図書館

内田慶市

筆者はこの10数年毎年夏はローマを中心にヨーロッパの図書館を巡り、筆者の研究に関わる資料の蒐集を行ってきたが、今回はバチカン図書館についてここで紹介することとする。

周知の如くカトリックの総本山のバチカン市国にあるバチカン図書館は、ヨーロッパの文献はもちろんのこと、16世紀以降中国を中心とする東アジアでのキリスト教の布教に努めた宣教師たちによって持ち帰られた漢籍をはじめ、朝鮮語、日本語、ベトナム語、満洲語、モンゴル語といった関係の文献資料も多く収められている。

この種の文献は実はバチカンではこの他、イエズス会文書館（ARSI = Archivum Romanum Societatis Iesu、図1-2）、プロパガンダフィード（Urbaniana University、図3-4）等にも収められている。いずれもバチカン市国内にあるので、バチカン図書館に行ったなら是非足を延ばしたい所である。

1. バチカン図書館入館への関門

バチカン図書館は、礼拝堂のあるバチカン美術館に行く途中の小さな門（図5）から入るが、ここが一つ目の関門となる。

バチカン市民は身分証明書を見せればそこを通過できるが、入館証を持っていない外部の利用者はここではパスポートだけでは通れない場合もある。従って予め図書館関係者に連絡をしてそこまで迎えに出てもらうのがよい。



図5

そこを通過すると次に受付があるので、そこでパスポートを提示して用務を説明し入館のための臨時の通行証を発行してもらい、図書館に向かう。しばらくすると、図書館に入る門（図6）があり、そこをくぐると中庭があり（図7）、右に図書館の入口（図8-9）が見えてくる。

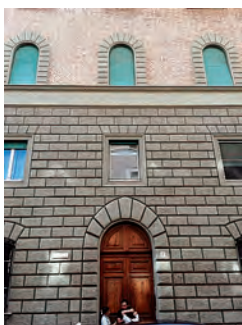


図1



図2



図3



図4



図6



図7



図 8



図 9

2. 入館証の発行

さて、以上のような「関門」を通り抜けて中に入ったら、まずは「入館証」(図10)の発行手続きだ。奥の事務室で手続きを行うが、パスポートと研究者を証明するものがあればほぼ問題はない。以前は、外務省に前もって届けるとか必要であったらしいが今はその必要はないようだ。ただ、念のために所属大学図書館の「紹介状」は持参した方が無難ではある。また、係の人の英語は必ずしもうまくないので、その点も考慮した方がよい。なお、カードは1年間有効だが、予め何回利用するかを申告、そのその回数を超えたら再発行ということになる。期限内に再発行の手続きをするが、夏休み明け(毎年9月中旬)、の最初の1週間は非常に混み合うその期間は避けた方がいいだろう。私の場合は、東洋部の主任と懇意なので休み明け以前に特別に延長手続きをしてもらっている。



図 10

3. 閲覧

さてバチカン図書館では所蔵されている資料はほぼ閲覧が可能である(図11-12)。日本や中国みたいに貴重書やレアブックは「何日前に予約」とかいったことは一切なく、当日、カタログ等で請求番号を調べてカウンターに出して後は本が出てくるのを待

つだけである。ただ隣の人の請求した本や友人が見ている本を横で見るとは許されない。のぞき込んだ途端、係の人が飛んできて注意される。この点だけは注意が必要である。



図 11

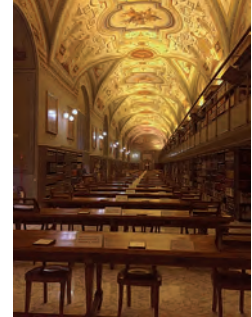


図 12

資料の閲覧に疲れたら、中庭にある Bar で一休み。洞窟のような素敵なカフェでエスプレッソもイタリア的でなかなかおしゃれかも(図13-14)。



図 13



図 14

4. バチカン図書館所蔵アジア小語種デジタル化構想

ところで、現在私たちはバチカン図書館、ローマ大学、北京外国語大学との共同プロジェクトを計画中である。その内容は、バチカン図書館に所蔵される中国と日本以外の朝鮮語、モンゴル語、ベトナム語、チベット語、満洲語といったいわゆる「アジア小語種」の文献のデジタル化である。

2015年の9月にバチカンで Ambrogio M. Piazzoni バチカン図書館副館長、東洋部主任余東博士、北京外国語大学張西平教授を交えて最初の打ち合わせが行われ、基本的な合意を得ている(図15)。

その後、2017年2月にも筆者はバチカンを訪れ、この関係の文献調査を行うと共に、館長ともお会いし(図16)今後の協定締結に向けて前向きな回答を

得ている。



図 15



図 16

だ、一般公開はされていないが、その壁画には4人の大正訪欧使節団の姿(図18)も描かれていて、バチカンと日本との関係の深さを感じさせる。



図 17

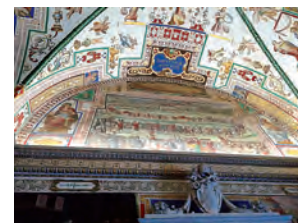


図 18

5. バチカン図書館回廊ほか

バチカン図書館閲覧室の上は実はバチカン美術館であるが、美術館内にありミケランジェロの「最後の審判」で有名な「システイーナ礼拝堂」と旧バチカン図書館回廊(図17)とは実は繋がっている。た

(うちだ けいいち 外国語学部教授)